

水田たより 7月号

令和8年7月2日

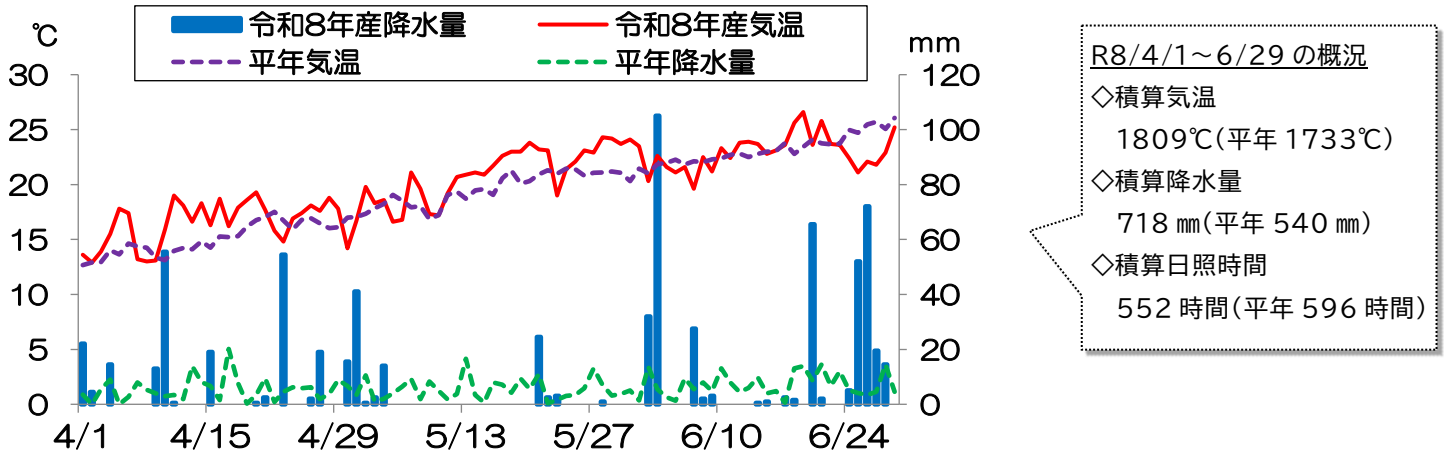
JA みえきた

桑名地域農業改良普及センター

水稲

気象状況と出穂期及び成熟期予測

気温は5月までは平年より高く、6月は平年並みに推移しました。また、東海地方の1か月予報（6/25 気象庁発表）では、向こう1か月の気温は平年より高い確率は50%と予測されています。今後気温は高く推移し、出穂期見込みも前年出穂期より早いため、成熟期も前年より早くなると見込まれます（例えば、今後の気温状況によりますが、出穂期から積算最高気温 1,000℃の約 30 日後が成熟期の見込みとなります。）。



◇出穂期予測（6月30日時点）

品種	移植日(前年移植日)	出穂期見込み(前年出穂期)
あきたこまち（長島）	4月13日(4月7日)	7月2日(7月1日)
コシヒカリ（多度）	4月16日(4月17日)	7月10日(7月13日)

生育基準田調査及びメッシュ農業気象・水稲生育予測システムから成熟期見込みを算出。

水稲

斑点米カメムシ類の防除を徹底しましょう！

病害虫発生予報第3号（三重県病害虫防除所 6/18 発表）では、斑点米カメムシ類の発生量はやや多と報告されていますので、**2回の薬剤防除を徹底**しましょう。

上記の出穂期予測にもありますように早生品種の出穂期が近づいています。**1ネカメムシが優占しているほ場については、1回目の適期（出穂期直後）の防除を徹底**してください（令和8年6月の水田たより特集号参照）。

畦畔雑草は斑点米カメムシ類の発生源となる恐れがありますので、**出穂10日前までに除草を終え**ましょう（カメムシ類が水稻に移動するため、出穂間際の畦畔除草は避ける）。

今後の天候次第で「いもち病」の発生も懸念されますので、混合剤の利用もご検討ください。



イネカメムシ

大豆

適期播種と雑草対策について

○適期播種

・大豆の播種が遅れると、開花までの栄養生長期間が短くなり、生育量が減少するため、収量が低くなる傾向があります。

・「フクユタカ」、「そらみのり」の播種適期は**7月上中旬**です。生育量を確保するため、播き遅れないようにしましょう。**溝の手直しなどの排水対策を行い、発芽不良を防ぎましょう。**

○雑草対策

・桑名管内では、アサガオ類、ホオズキ類などの難防除雑草が多発し、収量低下につながっています。
・特に、狭畦栽培の場合は、中耕による除草作業がないため、より徹底した雑草防除が必要です（水田たより令和7年7月号裏面の防除体系の例参照）。

過去の水田たよりは桑名地域農業改良普及センターのホームページでご確認いただけます。「桑名普及」でご検索ください。



桑名普及

検索